

ブラジル・政治、社会の安定性

ブラジル経済は安定的低成長へ

2013年上期:ビジネス環境の変化

国内要因: ブラジル政治・社会の変革

- ・21年振りの大規模街頭デモ

外部要因: 国際金融市場の変化

- ・新興国からの外資流出→レアル為替安

1. 6~7月の二つのデモ

① 6/20の主要都市百万人デモ

- ・92年コロール大統領Impeachment以来21年振りの大規模一般市民デモ
- ・デモ隊も機動隊も不慣れで衝突
- ・メディアの過剰反応的報道

② 7/11の労組のゼネスト・デモ

- ・PT政権の基盤の労組の存在誇示
10万人参加

デモ隊の主張に迫力なし。

- ・労働時間短縮
- ・年金制度改革
- ・派遣労働廃止

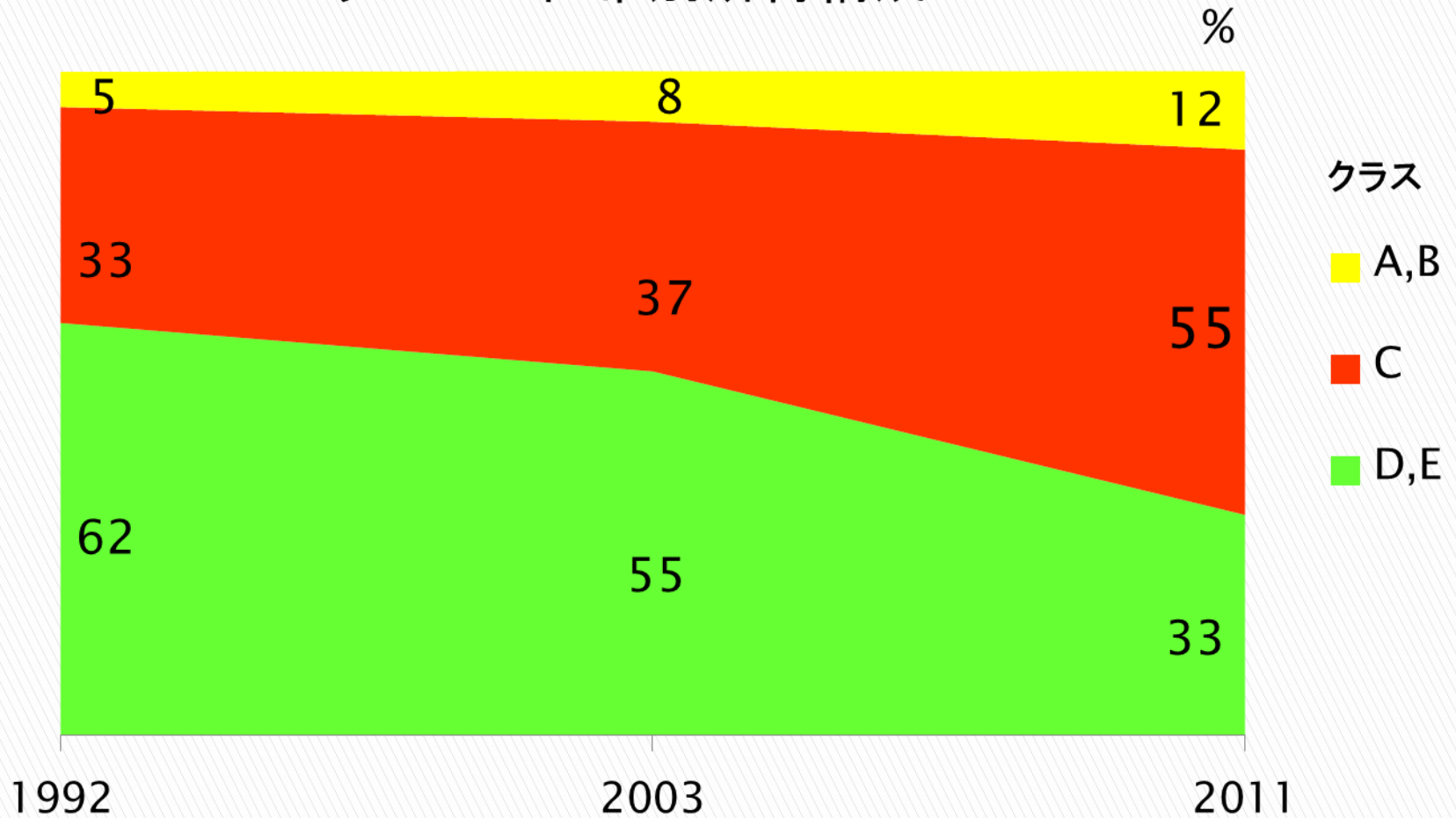
- ・一般市民の支持を得られず。

アラブの春、トルコの反政府デモとの違い

1. 反体制、反政府運動ではない。
2. 特定の政党、労組主導のデモではない。
3. MPL(公共交通無賃運動)の自然発生的デモ
4. Face Book、Twitterを通じての連帯感醸成

5. 公共サービス(教育、医療)の改善要求
Confederation, World Cupのサッカー狂
ばかりではない。-----画期的な現象
6. Mensalão汚職政治家無処罰への不満
7. Cクラスのデモに略奪者、ファベラ住民が
混入して様相が多様化
8. ジルマ政権支持率低下

ブラジルの世帯別所得構成



Cクラス:最低給与の4倍超~10倍, R\$1,734~7,475 FGV

Cクラス:最近7年間で40百万人増加

- 一般市民のデモは民主化、先進国化への第一歩
民政移管から28年、民主化の歴史の通過点
- 日本の1969年(戦後24年)の全共闘運動との比較

類似点: 大学生・若者の目覚め、社会への
不満爆発、政治不信、既成政党離れ

相違点: ブラジル全学連の組織は弱い。
ブラジル人は最後まで徹底的にやらな

い。

・来年10月の総選挙は混戦

選挙前にデモが再発するであろう。

- ・ PTの支持率低下 (Mensalão汚職)
- ・ PSDBが巻き返せるか?
- ・ PMDBが鍵

連立政権・PT第一党でも勢力は低下か。

- ・ブラジルは一応三権分立が確立されている直接選挙制の民主国家。

85年民政移管から28年、
88年民主憲法から25年経過。

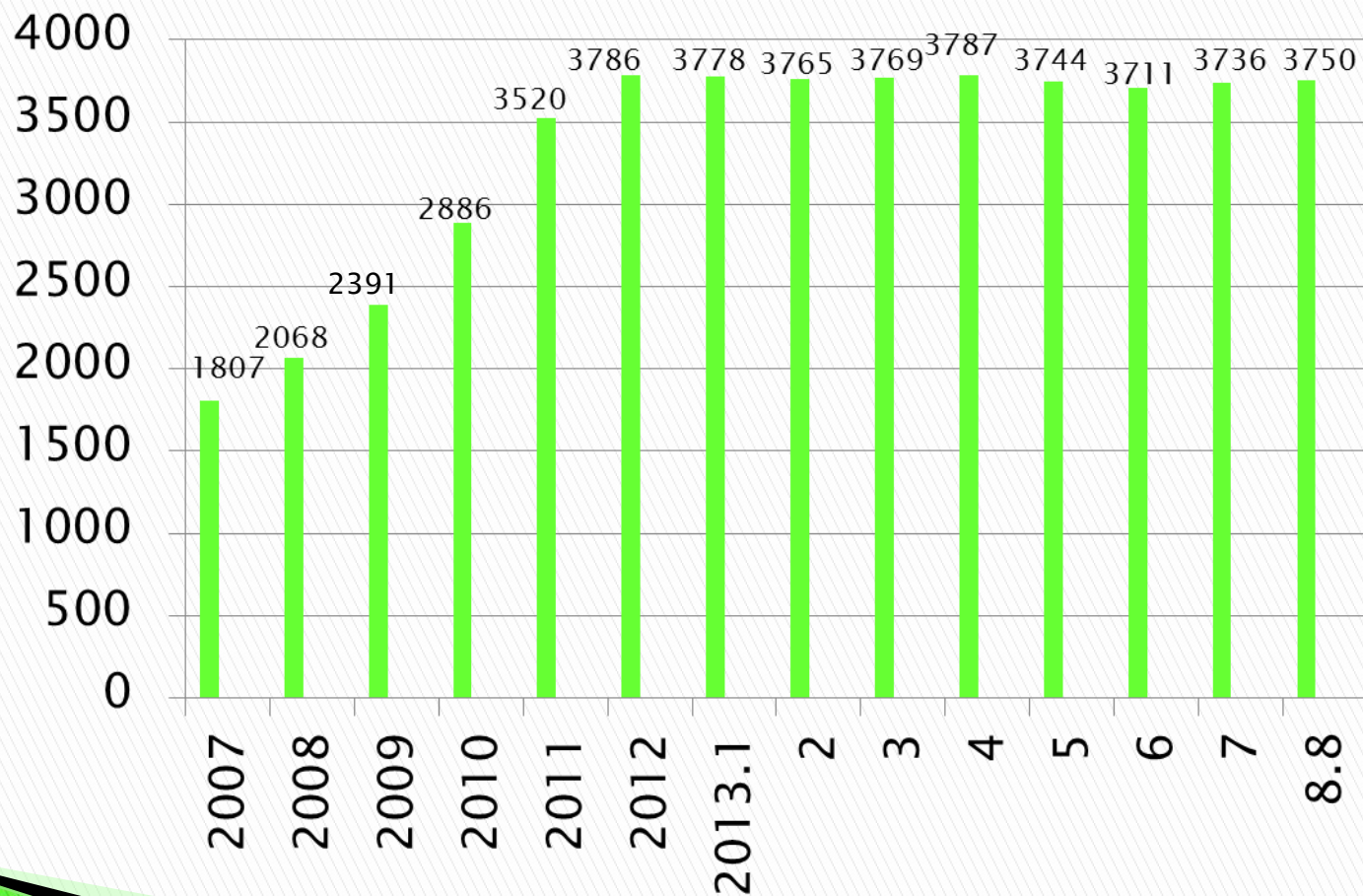
BRICSの中では政治、社会が最も安定
経済は安定的低成長を予想。

2. 新興国の政治リスク

新興国発の危機が全世界へ波及するか？

- ・米FRBのQE3縮小をきっかけに新興国から米・日へ資金が還流
- ・メキシコ82年債務危機、94年通貨危機、97年アジア通貨危機のような大危機は発生しにくい。
- ・G7、8からG20へ世界は変っている。
- ・新興国の外貨準備の積上り

ブラジルの外貨準備高（単位：億ドル）



3. ブラジルの国際社会への積極的参加 国際競争力の強化が必要

- 中国経済の減速によるCommodity価格の低下への対応には自助努力を要する。
- 国内産業保護政策の緩和→民間企業間競争化
- 公営企業独占から民活へ
- ブラジル・コストの低減

- インフラ整備（特にロジスティック）
- 諸規制緩和（特に輸入手続き）
- 税制簡素化（IT化→税金の種類減少）
- 労働自由化

外国人技術者、労働者の区別
パートタイマー

- 多過ぎるLocal Ruleを簡素化し、
国際標準を積極的に取入れ、
高いHurdleを下げて、競争力を高める。

Muito Obrigado !